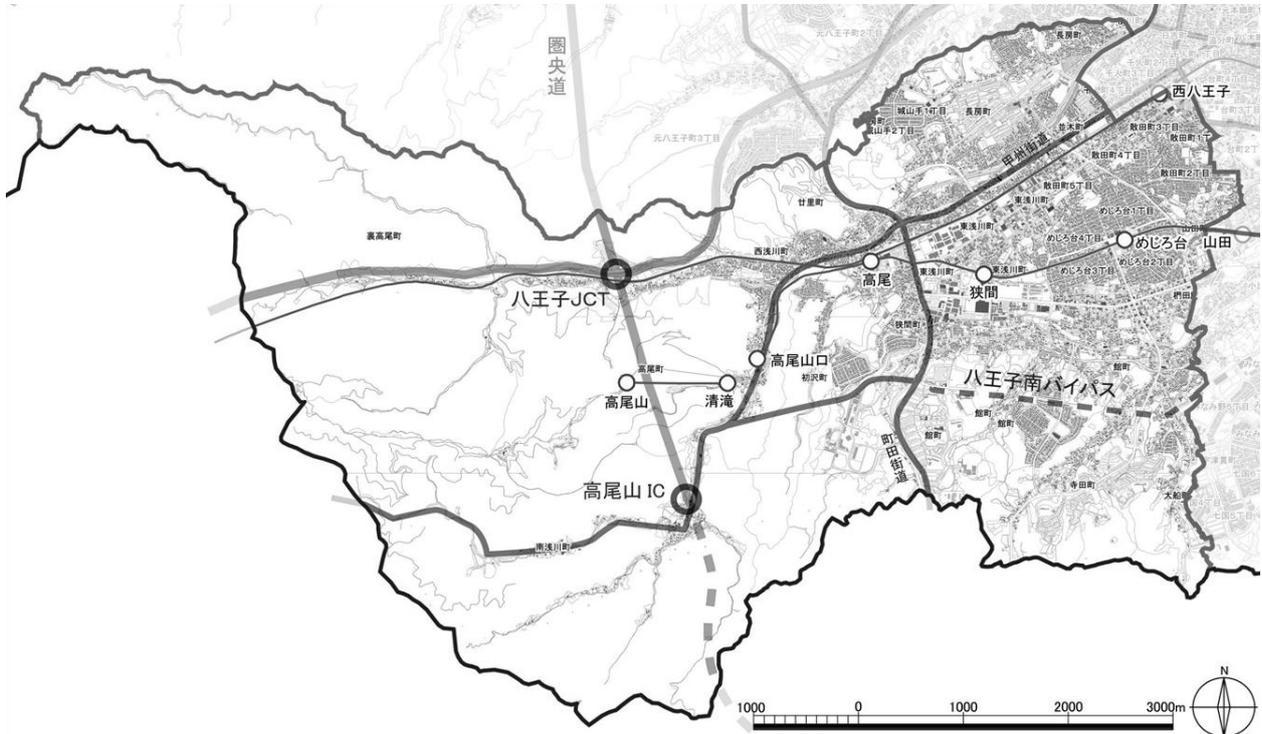


## 第4章：西南部地域の現状と課題

### 西南部地域の概要



出所：東京都土地利用現況調査 平成19年度建物現況（多摩部）No.25113

| 6地域   | 14地域 | 町名  | 人口(人)  |
|-------|------|---|--------|
| 西南部地域 | 浅川地域 | 東浅川町、初沢町、高尾町、南浅川町、西浅川町、裏高尾町、廿里町                   | 19,866 |
|       | 横山地域 | 並木町、散田町1丁目～5丁目、山田町、めじろ台1丁目～4丁目、長房町、城山手1丁目～2丁目、狭間町 | 50,742 |
|       | 館地域  | 梶田町、館町、寺田町、大船町                                    | 29,368 |

出所：住民基本台帳 平成25年3月31日現在

西南部地域は、浅川地域、横山地域、館地域で構成される。地域内にはJR中央線及び京王線が通り、始発駅を有するため通勤・通学の利便性は高い。さらに、近年、圏央道の高尾山インターチェンジが完成したことで、西南部地域の利便性はさらに向上している。館地域には大学付属病院が立地し、医療の拠点となっているほか、複数の大学があることから、学生向けの寮やアパートも多く存在する。横山地域には住宅地が広がっている。浅川地域には観光地として知られる高尾山をはじめ多摩御陵や都立陵南公園があり、緑豊かな風景が広がる。

# 1. 人口動態—過去、現在、未来—

## (1) 人口構造

### 【地域人口の現状】

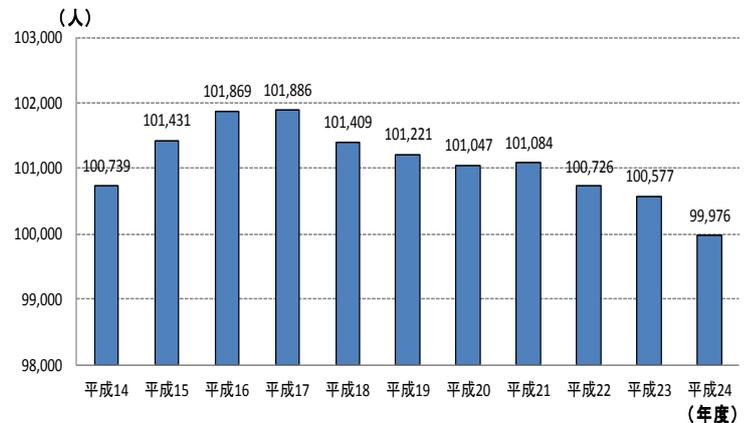
人口は2005（平成17）年度をピークに少しずつ減少し、2012（平成24）年度では9万9,976人となり10万人を割り込んだ（図表4-1-1）。

年齢構成は団塊世代、団塊ジュニア世代の人数が多い（図表4-1-2）。

世帯構成比では1人世帯が37.1%と、中央地域（49.3%）、東部地域（38.8%）に次いで大きい（図表4-1-3）。

図表 4-1-1 人口の推移

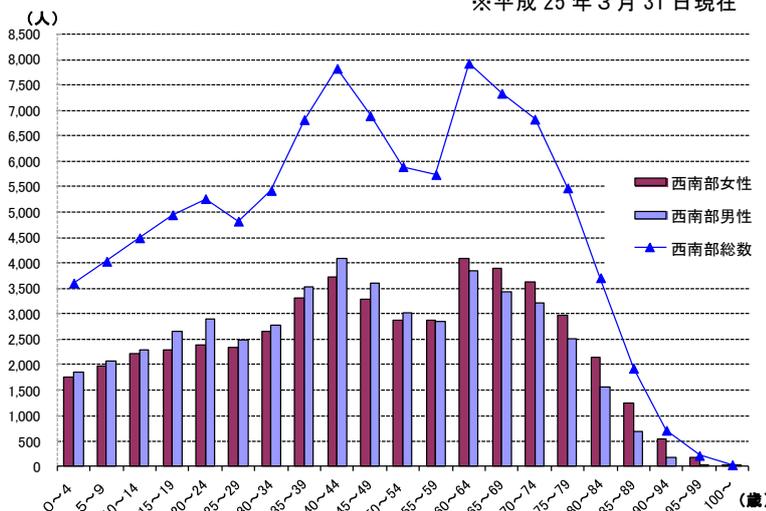
各年度3月末現在



出所：住民基本台帳

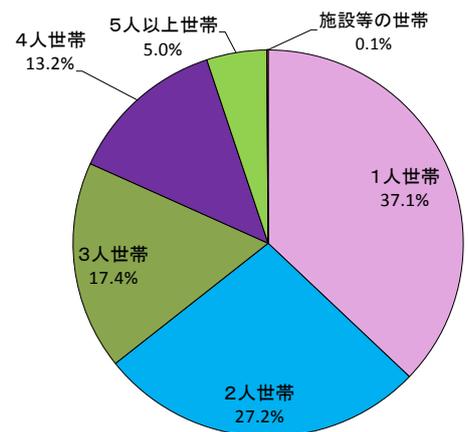
図表 4-1-2 年齢構成

※平成25年3月31日現在



出所：住民基本台帳

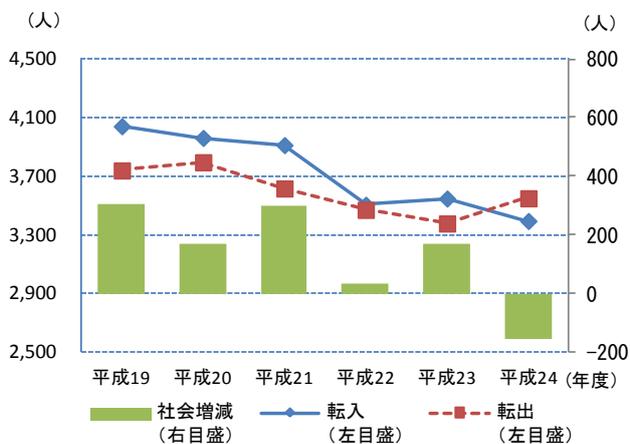
図表 4-1-3 世帯構成比



出所：平成22年国勢調査

## (2) 社会動態

図表 4-1-4 転入・転出者の推移と社会増減

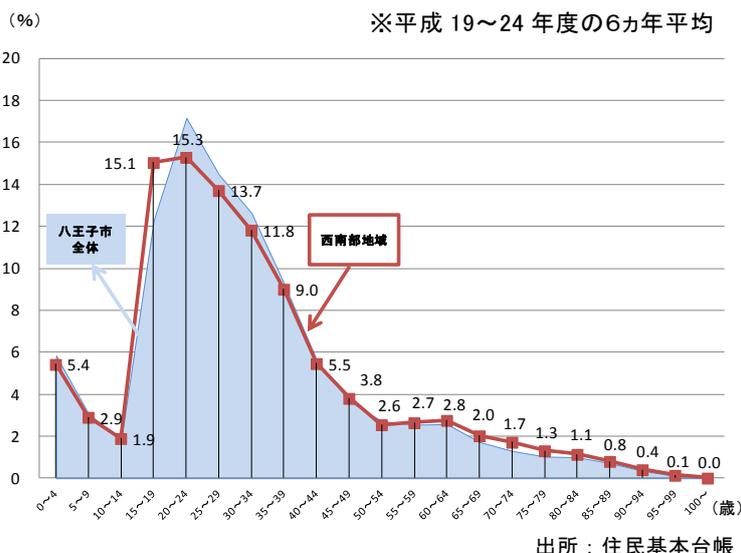


出所：住民基本台帳

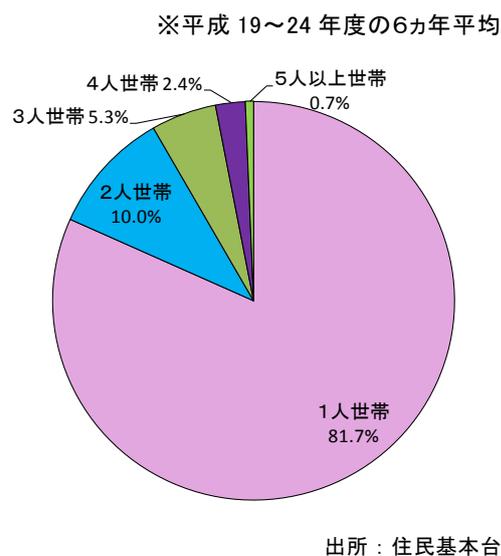
|           | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 転入者数(A)   | 4,043  | 3,963  | 3,914  | 3,507  | 3,549  | 3,396  |
| 転出者数(B)   | 3,741  | 3,797  | 3,618  | 3,472  | 3,379  | 3,551  |
| 社会増減(A-B) | 302    | 166    | 296    | 35     | 170    | ▲155   |

単位：人

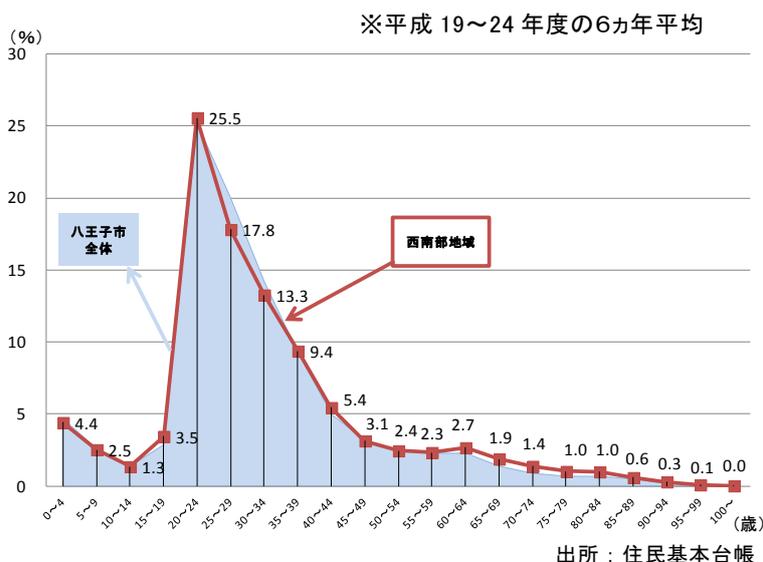
図表 4-1-5 転入者の年齢別構成比



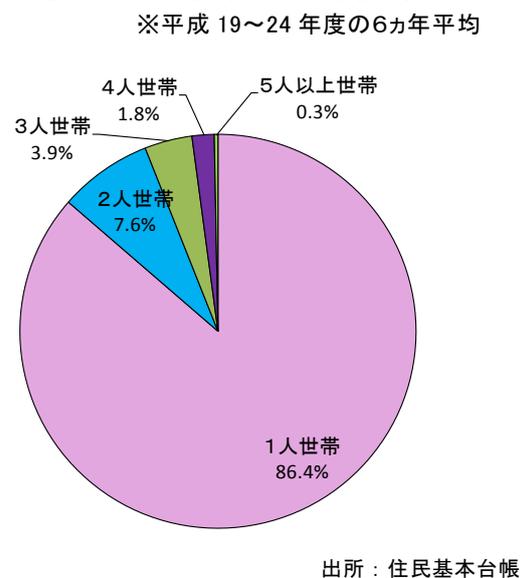
図表 4-1-6 転入者の世帯構成比



図表 4-1-7 転出者の年齢別構成比



図表 4-1-8 転出者の世帯構成比



**【転入・転出の特徴】**

社会動態を見ると、2011（平成 23）年度までは転入者数が転出者数を上回っていたが、2012（平成 24）年度には僅差で転出者数が転入者数を上回った（図表 4-1-4）。

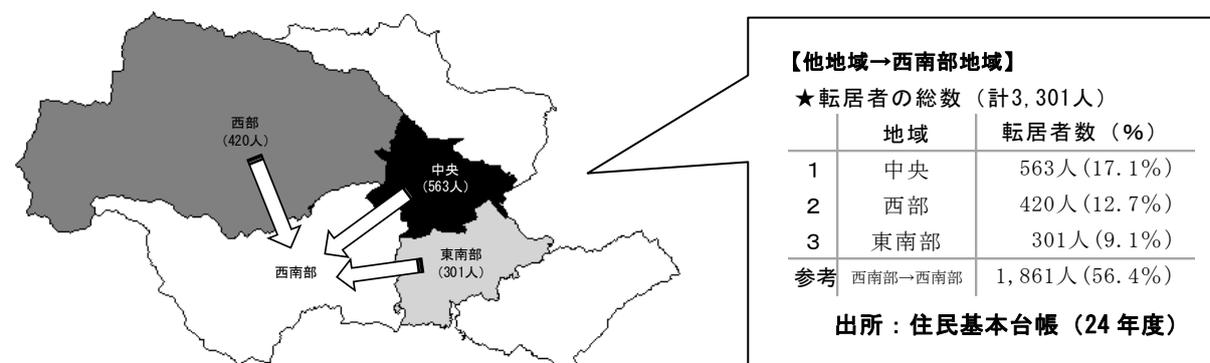
転入者の年齢別構成比を見ると、15-19 歳が 15.1%と八王子市全体に比べ高い値となっており、20-24 歳、25-29 歳の割合は、八王子市全体に比べ低くなっている。この地域に学生寮があることが、こうした傾向に影響していると考えられる。その他の年代においては、八王子市全体とほぼ重なる（図表 4-1-5）。また、転出者の年齢別構成比は八王子市全体の値とほぼ重なる（図表 4-1-7）。

転入者の世帯構成比を見ると、1人世帯が 81.7%と北部地域（86.9%）、中央地域（85.9%）に次いで3番目に高い値となっている（図表 4-1-6）。こうした1人世帯の割合の大きさは、転出者でも同様である（図表 4-1-8）。

図表 4-1-9 【西南部地域→他地域】市内転居者数 上位3地域（総数）



図表 4-1-10 【他地域→西南部地域】市内転居者数 上位3地域（総数）



図表 4-1-11 【西南部地域→他地域】市内転居者数 上位3地域（0-4歳、20-24歳、25-39歳）

| ★0-4歳の転居者数（計237人） |         |             | ★20-24歳の転居者数（計338人） |         |             | ★25-39歳転居者の総数（計1,092人） |         |             |
|-------------------|---------|-------------|---------------------|---------|-------------|------------------------|---------|-------------|
|                   | 地域      | 転居者数（%）     |                     | 地域      | 転居者数（%）     |                        | 地域      | 転居者数（%）     |
| 1                 | 中央      | 37人（15.6%）  | 1                   | 中央      | 68人（20.1%）  | 1                      | 中央      | 203人（18.6%） |
| 2                 | 西部      | 31人（13.1%）  | 2                   | 東南部     | 37人（10.9%）  | 2                      | 西部      | 160人（14.7%） |
| 3                 | 東南部     | 27人（11.4%）  | 3                   | 西部      | 32人（9.5%）   | 3                      | 東南部     | 110人（10.1%） |
| 参考                | 西南部→西南部 | 130人（54.9%） | 参考                  | 西南部→西南部 | 176人（52.1%） | 参考                     | 西南部→西南部 | 570人（52.2%） |

図表 4-1-12 【他地域→西南部地域】市内転居者数 上位3地域（0-4歳、20-24歳、25-39歳）

| ★0-4歳の転居者数（計254人） |         |             | ★20-24歳の転居者数（計314人） |         |             | ★25-39歳転居者の総数（計1,100人） |         |             |
|-------------------|---------|-------------|---------------------|---------|-------------|------------------------|---------|-------------|
|                   | 地域      | 転居者数（%）     |                     | 地域      | 転居者数（%）     |                        | 地域      | 転居者数（%）     |
| 1                 | 中央      | 48人（18.9%）  | 1                   | 中央      | 72人（22.9%）  | 1                      | 中央      | 202人（18.4%） |
| 2                 | 西部      | 36人（14.2%）  | 2                   | 西部      | 28人（8.9%）   | 2                      | 西部      | 149人（13.5%） |
| 3                 | 東南部     | 33人（13.0%）  | 3                   | 東部      | 19人（6.1%）   | 3                      | 東南部     | 128人（11.6%） |
| 参考                | 西南部→西南部 | 130人（51.2%） | 参考                  | 西南部→西南部 | 176人（56.1%） | 参考                     | 西南部→西南部 | 570人（51.8%） |

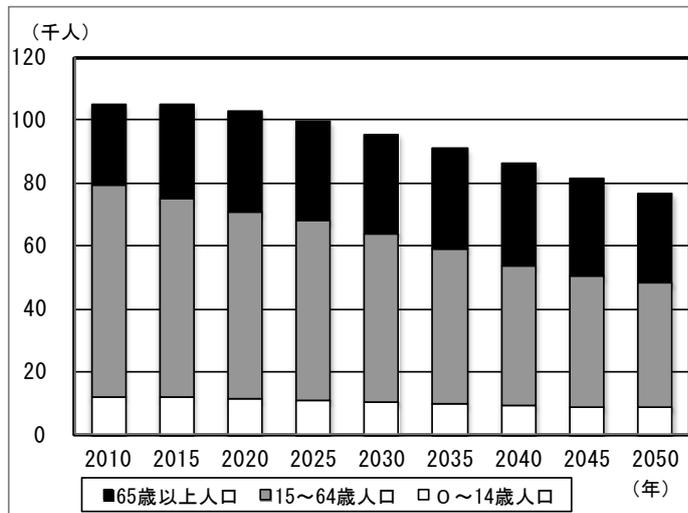
### 【西南部地域の市内転居の現状】

西南部地域から他地域、他地域から西南部地域への転居者総数を見ると、中央地域が1位、西部地域が2位、東南部地域が3位となっており、この3地域との結びつきが強く、相互に転居先として選択されていることがわかる。この傾向は子育て時期（0-4歳）、大学からの卒業時（20-24歳）、若い勤労者（25-39歳）の各年齢層でも同じ傾向にある。ただし、他地域から西南部地域に転居した20-24歳については、東部地域が6.1%（3位）となっている。

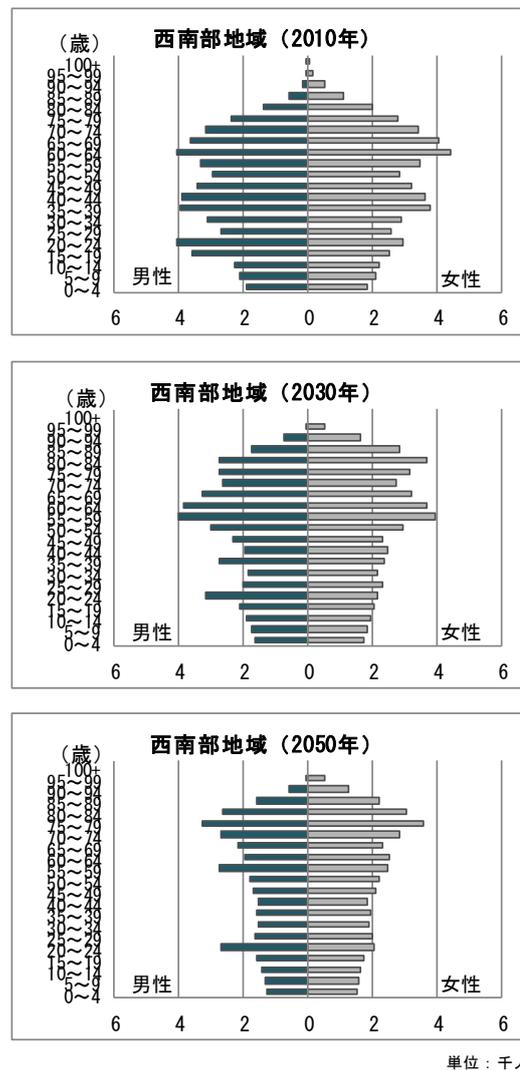
※本調査の概要と特定の年齢層に着目した理由は、（注8）を参照のこと

### (3) 将来人口推計【西南部地域】

図表 4-1-13 人口の推移（年齢3区分）



図表 4-1-14 人口ピラミッドの推移



図表 4-1-15 人口と構成比率の推移（年齢3区分）

| 年    | 0～14 |       | 15～64 |       | 65～  |       | 合計    |
|------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|
| 2010 | 12.4 | 11.8% | 67.4  | 64.0% | 25.4 | 24.1% | 105.2 |
| 2015 | 12.0 | 11.4% | 63.3  | 60.0% | 30.1 | 28.5% | 105.4 |
| 2020 | 11.6 | 11.2% | 59.4  | 57.7% | 32.0 | 31.1% | 103.0 |
| 2025 | 11.4 | 11.4% | 56.8  | 56.8% | 31.8 | 31.8% | 100.0 |
| 2030 | 10.8 | 11.2% | 53.5  | 55.8% | 31.6 | 33.0% | 95.9  |
| 2035 | 10.2 | 11.2% | 49.3  | 54.0% | 31.8 | 34.8% | 91.3  |
| 2040 | 9.6  | 11.1% | 44.5  | 51.5% | 32.3 | 37.3% | 86.4  |
| 2045 | 9.1  | 11.2% | 41.5  | 50.9% | 31.0 | 37.9% | 81.6  |
| 2050 | 8.8  | 11.4% | 39.6  | 51.3% | 28.8 | 37.3% | 77.2  |

単位：千人

単位：千人

#### 【西南部地域】地勢と将来人口から見る地域の姿

西南部地域の総人口は2015（平成27）年に10万5,400人でピークを迎え、その後は減少する（図表4-1-13）。老年人口比率は2020（平成32）年に30%を超え、その後も上昇する一方で、生産年齢人口比率は低下していく（図表4-1-15）。人口ピラミッドからは、学生世代の転入と、20代後半での転出が見て取れる（図表4-1-14）。

2010（平成22）年における西南部地域の人口構造は、団塊世代、団塊ジュニア世代と15～24歳の世代が多いという、八王子市全体と非常に似たものとなっている（図表4-1-14）。現在40～60代の世代が高齢化する一方、学生世代は卒業と同時にその多くが転出する傾向が見られ、結果として若い世代が増えないことが、生産年齢人口の減少の背景にあると考えられる。推計に際しては大学などが現在の所在地にそのまま残るということを前提にしているが、近年、都心回帰の考えから大学の都心への移転が進んでいる状況を考えると、この推計結果はさらに厳しいものになる可能性もある。

## 2. 居住に関する意識

### (1) 定住意向の分析【西南部地域】

#### ① 選択式回答から見た定住意向

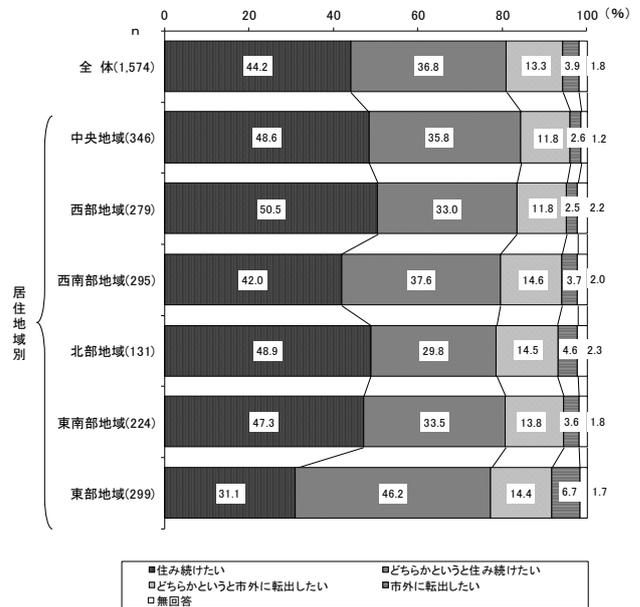
西南部地域に居住する市民の定住意向は79.6%と高いものの、全体の平均である81.0%より低くなっている。中でも「住み続けたい」と積極的な定住意向を示した市民の割合(42.0%)は、東部地域(31.1%)に次いで低くなっている(図表4-2-1)。また、他の地域では「住み続けたい」とする回答は女性の割合が高いのに対し、西南部地域は6地域で唯一、男性(57.3%)が上回ることが興味深い。

居住地域の住環境に対する評価では、「自然環境」について《満足》と回答した割合が83.1%と高く、次いで「食料品など普段の買い物をするスーパー・商店などの利便性」、「電車の利便性」、「街並み・景観」の満足度がいずれも7割以上と高くなっている。とくに「食料品など普段の買い物をするスーパー・商店などの利便性」は75.9%と、他の地域と比べて高い割合の人が《満足》と回答している。また、「病院・診療所などへの行きやすさ」、「病院・診療所などにおける診療サービスの種類」は、ともに満足度が高い(図表4-2-2)。「商店の利便性」、「電車の利便性」については、積極的な定住意向のある市民も、それぞれ45.1%、41.3%が「非常に満足している」とし、他の地域に比べて満足度が高くなっている。

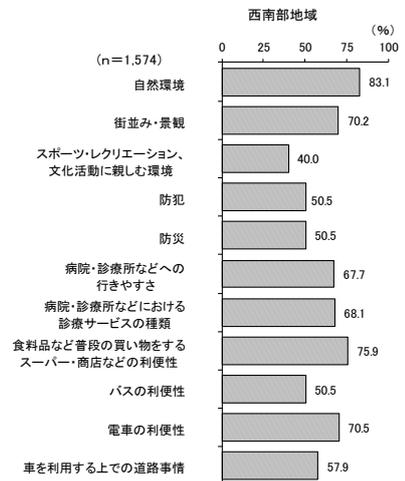
一方、「バスの利便性」についての満足度(50.5%)は、6地域の中で最も低く、積極的な定住意向のある市民でも23.9%が「やや不満」、「非常に不満」と回答している。

地域に対する意識としては、「八王子の自然に対する誇りや愛着」を《感じる》と回答した割合が83.0%と6地域で一番高い。また、積極的な定住意向のある市民の回答では、「八王子市の市民の一員としての意識」について問う設問に、「持っている」と回答した割合(65.9%)が他の地域に比べて高くなっている。

図表 4-2-1 定住意向 (居住地域別)



図表 4-2-2 住環境に対する満足度



#### ② 自由記述回答において使用頻度の多い語句とその内容の傾向

定住意向を回答するにあたり根拠となった考えについて、自由記述回答で求めたところ、使用頻度の多い語句では「自然環境」「交通」「友人・知人・隣人」「子ども、子育て」「長年在住、住み慣れた」の順であった。とくに「自然環境」「交通」については、西南部地域の回答者の3割を超える記述(36.7%、31.5%)で触れられていた。また、「長年在住、住み慣れた」(15.1%)が理由として上位に入るのは、この西南部地域と西部地域のみになっている(図表4-2-3)。

自由記述回答の内容をみると、「自然環境」について触れた記述回答では、西南部地域にある「高尾山」を具体的に挙げたものが多くみられた。同様に「高尾山」の回答が多かった中央地域では、都心からの距離と合わせて使うものが多かったが、西南部地域ではその傾向はみられない。「交通」では、鉄道の利便性を理由にした回答が圧倒的に多く、他の地域と比較しても評価が高い。

「始発駅を利用できるため通勤に適するため」(50代男性)との回答にみられるように、通勤の利便性や同地域内にある高尾駅が始発であることに触れたものも多い。職場までの通勤時間を比較すると、西南部地域は「30分以上」とする回答(59.3%)と東部地域(59.8%)について多くなっており、鉄道の利便性を理由とするものが多いのにはそうした背景があるものと考えられる。また、自由記述回答からは、「医療機関」や「商業施設」について、「近い・多い」など利便性の高さを示唆する回答が多くあった。「子ども、子育て」に関する理由としては、現役で子育てをしている世代からは「都内であるが、自然も多く、子どもを育てるのによい環境」(40代女性)、子育てを終えた世代からは「自宅が有る。子どもが育った所なので。子どもにとっては故郷である」(70代男性)などの双方からの記述がみられた。

「始発駅を利用できるため通勤に適するため」(50代男性)との回答にみられるように、通勤の利便性や同地域内にある高尾駅が始発であることに触れたものも多い。職場までの通勤時間を比較すると、西南部地域は「30分以上」とする回答(59.3%)と東部地域(59.8%)について多くなっており、鉄道の利便性を理由とするものが多いのにはそうした背景があるものと考えられる。また、自由記述回答からは、「医療機関」や「商業施設」について、「近い・多い」など利便性の高さを示唆する回答が多くあった。「子ども、子育て」に関する理由としては、現役で子育てをしている世代からは「都内であるが、自然も多く、子どもを育てるのによい環境」(40代女性)、子育てを終えた世代からは「自宅が有る。子どもが育った所なので。子どもにとっては故郷である」(70代男性)などの双方からの記述がみられた。

### ③定住意向から見た西南部地域の特徴

今回の調査からうかがえる西南部地域に暮らす市民の特徴として、勤務地が「八王子市内」とする回答が42.9%を占めるものの、6地域の中では東部地域(25.6%)に次いで低いこと、そして職場までの通勤時間は、「30分未満」、「30分以上～1時間未満」、「1時間以上～2時間未満」がいずれも25%以上を占めていることが挙げられる。鉄道の利便性が高いことを背景に、多様な場所に通勤している市民の姿がうかがえる。

#### ◆鉄道、医療機関、商業施設などバランス良く評価されている利便性

西南部地域の特徴は、鉄道に代表される交通(通勤)の利便性と、医療機関や商業施設に対する満足度の高さにある。八王子の自然に対する誇りや愛着を「感じる」とした割合は83.1%と6地域で一番高く、自然環境の良さがありながら、交通、医療、商業といった日常生活の利便性が確保されている点が西南部地域の強みと言えよう。

#### ◆積極的な定住意向が低い

「ある程度の生活利便性が確保され」、「自然に対する誇りや愛着が高く」、「市民としての帰属意識も持っており」、「地域活動への参加割合も他の地域にくらべて低くない」にも関わらず、積極的な定住意向が高くないことは、西南部地域の弱みと言えよう。これは西南部地域の中で地域によって大きな差があることが考えられる。様々な地域性を有することを踏まえながら、人々のつながりを育む観点が重要と考えられる。また、生活の利便性に着目するならば、他の項目に比べて評価の低かったバスの利便性については、医療機関や商業施設の利便性が高いことを勘案すれば、車などの代替手段によって担保されている可能性がある。今後、高齢化が進展することを踏まえ、バスの利便性についても着目する必要がある。

西南部地域の今後のまちづくりは、現在評価の高い利便性を維持しつつ、遠距離通勤者や新たな転入者と地域とのつながりを育むしくみが求められる。

図表 4-2-3 【西南部地域】自由記述回答  
において使用頻度の高い語句

| 順位(%)                  | 特徴   |
|------------------------|--|
| ① 自然環境<br>(36.7)       | ◆「長年在住、住み慣れた」が5位以内に入っているのは「西部地域」および「西南部地域」のみ |
| ② 交通<br>(31.5)         |  |
| ③ 友人・知人・近所<br>(19.5)   |  |
| ④ 子供、子育て<br>(17.5)     |  |
| ⑤ 長年在住、住み慣れた<br>(15.1) |  |

※%は、全ての自由記述回答の中で、当該の語句を使用した回答の割合を示す

## （２）転入・転出要因の分析【西南部地域】

西南部地域への転入者の転入元と、西南部地域からの転出者の転出先を見ると、西南部地域と近い位置関係にある「相模原市」の割合がやや大きいものの、近隣４市が「日野市」＜「相模原市」＜「町田市」＜「多摩市」の順に多くなっており、これは市全体と同じである。そうした中で特徴的と言えるのは、転出者の「転出前に八王子市に居住していた期間」である。西南部地域は「10年以上～20年未満」と「20年以上」を合わせた《10年以上》の割合が43.9%にのぼり、市全体の36.8%を大きく上回った（図表4-2-4）。

一方、転入者に「以前の八王子市居住経験」について尋ねると、経験が「ある」と答えた割合は36.2%で、市全体の割合（33.5%）より少し高い。また、経験が「ある」という回答者の「以前の居住期間」は、「1年以上～3年未満」の割合が8.6%、「20年以上」の割合が12.4%で、市全体の割合（それぞれ5.1%、10.8%）よりも高く、とくに「1年以上～3年未満」とした回答者が全年齢層にわたって分布していることが特徴的である。人生の一時期、西南部地域に居住した人が戻ってくる場合が多い地域と言えよう。

### ①利便性の高さを背景にファミリー層に選ばれる地域

西南部地域への転入者を年齢別に見ると、30～34歳の割合が25.7%となっており、これは市全体の割合（21.4%）を上回って、6地域の中でトップとなった（図表4-2-5）。また、その西南部地域に転入した30～34歳の層に「転入の理由」を問うと、「結婚・離婚のため」と「子育ての環境を考えて」が多い。さらに、同じ回答者層の「転入後の世帯構成」を見ても「配偶者とふたり暮らし」、「自分たち夫婦と未婚の子ども」の割合が81.4%を占めるなど非常に多く（図表4-2-6）、結婚してすぐか、小さな子どもを持つファミリー層が居住先として西南部地域を選ぶ傾向が強いと言える。西南部地域は地域内に鉄道のターミナル駅を有し、駅周辺にはスーパーや病院等が一定程度集まっていること、そして高尾山をはじめとする自然が豊かであることなどが、こうしたファミリー層に選ばれる背景として挙げられよう。

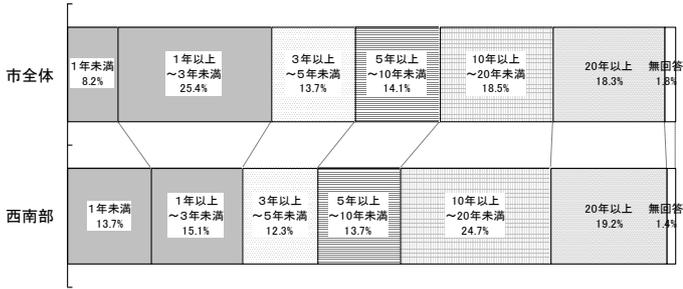
そのことは、転入者、転出者双方の「西南部地域の住環境に対する評価」からもうかがい知ることができる。すなわち、西南部地域は「公共交通機関の利便性」、「医療・福祉の充実度」に対する満足度が転入者、転出者ともに市全体と比べて高く、転入者は「道路事情」に関する満足度が市全体と比べて高い。

### ②「近隣の人間関係」には向上の余地あり

地域に長く居住する人が比較的多い西南部地域だが、「近隣の人間関係」に関する主観的な評価を見ると、「八王子市の方が良い」と「どちらかと言えば八王子市の方が良い」を合わせた《八王子市の方が良い》の割合が、転入で40.0%、転出で23.3%となった。これは市全体の割合（転入：41.7%、転出：23.2%）とあまり変わらないが、6地域の中では転入が5位、転出が3位であり、どちらかと言えば順位が低い結果となった（図表4-2-7）。

西南部地域の「近隣の人間関係」に対する主観的な評価と「八王子市の住みよさ」に対する評価のクロス分析を行うと、転入・転出ともに両者は正の相関関係にあることが分かる（図表4-2-8）。すなわち、「近隣の人間関係」に対する主観的な評価が下がるほど、八王子市は「住みよいと思う」と答える割合も低下していく。上記のとおり、自然と利便性が調和した西南部を選んで転入してくるファミリー層が多いからこそ、地域の一体性をさらに向上させ、「近隣の人間関係」をより良好なものにしていくための工夫が求められていると言えよう。

図表 4-2-4 転出前に八王子市に居住していた期間

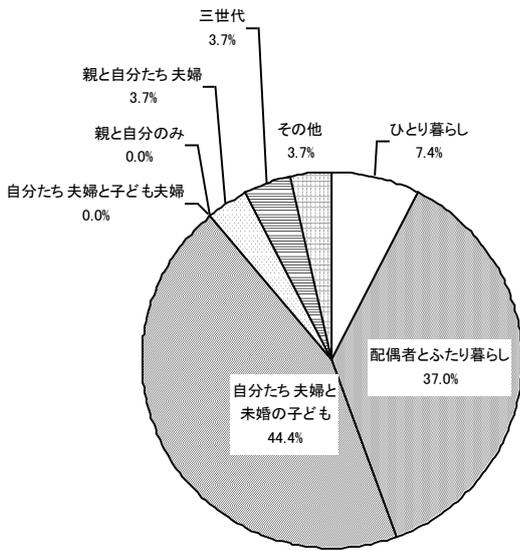


図表 4-2-5 転入者の年齢構成

|        | 中央    | 西部    | 西南部   | 北部    | 東南部   | 東部    | 市全体   |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 20～24歳 | 1.0%  | 0.0%  | 5.7%  | 4.4%  | 3.8%  | 4.8%  | 3.4%  |
| 25～29歳 | 22.9% | 12.0% | 12.4% | 19.8% | 14.3% | 10.5% | 15.2% |
| 30～34歳 | 25.0% | 17.4% | 25.7% | 24.2% | 19.0% | 17.1% | 21.4% |
| 35～39歳 | 15.6% | 29.3% | 13.3% | 15.4% | 20.0% | 12.4% | 17.5% |
| 40～44歳 | 11.5% | 13.0% | 8.6%  | 12.1% | 9.5%  | 11.4% | 10.9% |
| 45～49歳 | 1.0%  | 5.4%  | 7.6%  | 3.3%  | 7.6%  | 3.8%  | 4.9%  |
| 50～54歳 | 7.3%  | 5.4%  | 2.9%  | 5.5%  | 5.7%  | 8.6%  | 5.9%  |
| 55～59歳 | 3.1%  | 5.4%  | 5.7%  | 2.2%  | 4.8%  | 8.6%  | 5.1%  |
| 60～64歳 | 3.1%  | 3.3%  | 4.8%  | 2.2%  | 4.8%  | 7.6%  | 4.4%  |
| 65～69歳 | 3.1%  | 3.3%  | 3.8%  | 4.4%  | 5.7%  | 5.7%  | 4.4%  |
| 70～74歳 | 4.2%  | 1.1%  | 4.8%  | 3.3%  | 3.8%  | 3.8%  | 3.5%  |
| 75～79歳 | 0.0%  | 1.1%  | 3.8%  | 0.0%  | 0.0%  | 3.8%  | 1.5%  |
| 80歳以上  | 2.1%  | 3.3%  | 1.0%  | 3.3%  | 1.0%  | 1.9%  | 2.0%  |

図表 4-2-6 転入後の世帯構成

※西南部地域に転入した 30～34 歳のみ

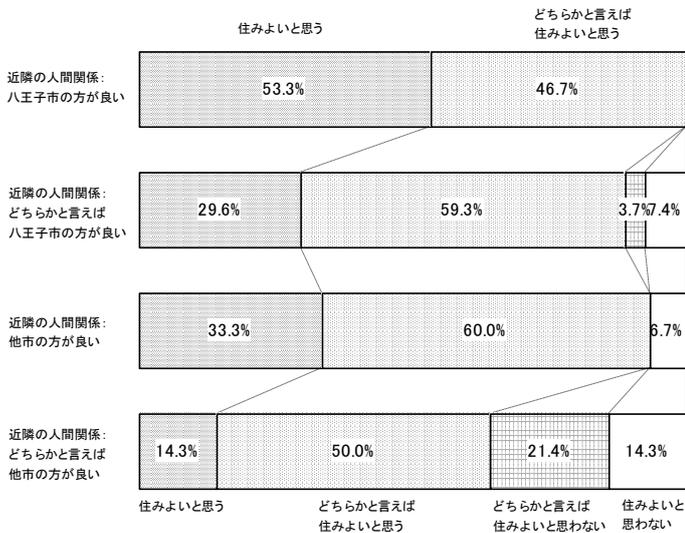


図表 4-2-7 「近隣の間人間関係」について  
「八王子市の方が良い」とした割合

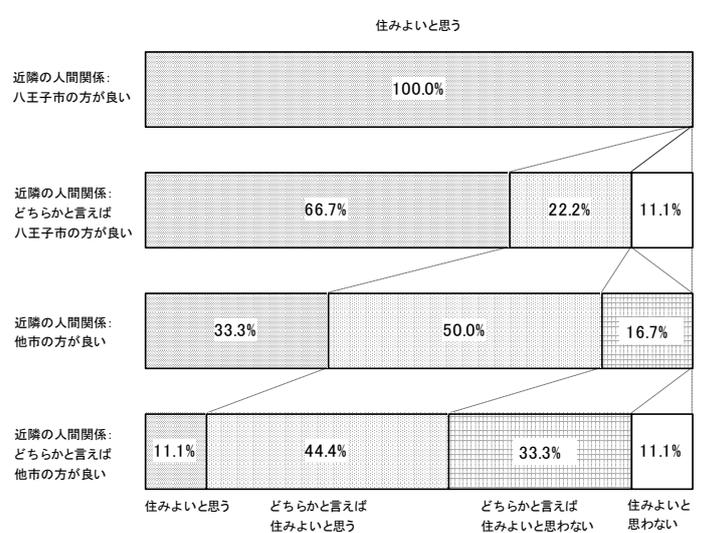
| 順位  | 転入            | 転出            |
|-----|---------------|---------------|
| 1   | 中央地域 (45.8%)  | 西部地域 (31.4%)  |
| 2   | 西部地域 (45.6%)  | 中央地域 (24.7%)  |
| 3   | 北部地域 (45.1%)  | 西南部地域 (23.3%) |
| 4   | 東部地域 (43.8%)  | 北部地域 (22.6%)  |
| 5   | 西南部地域 (40.0%) | 東部地域 (19.8%)  |
| 6   | 東南部地域 (31.4%) | 東南部地域 (17.5%) |
| 市全体 | 41.7%         | 23.2%         |

図表 4-2-8 西南部地域における「近隣の間人間関係」と「住みやすさ」の関係

【転入】



【転出】



### 3. 課題の整理【西南部地域】

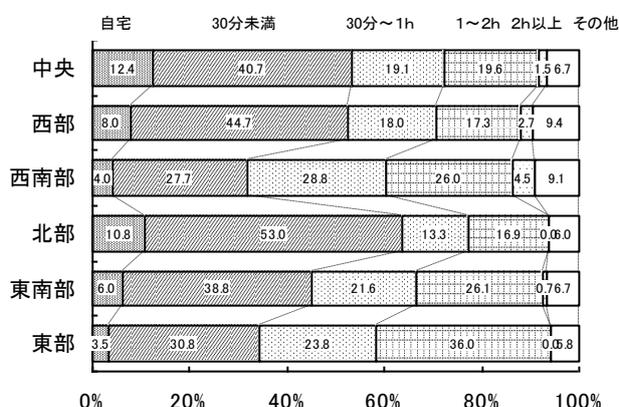
西南部地域は、JR 中央線と京王線の駅を複数有している。各駅の周辺には住宅とともにスーパーや商店街、病院等が立地しており、生活の利便性は一定程度確保されている。その一方で、高尾山をはじめとするみどりも豊かであり、歴史あるまちなみも残されているなど、ゆとりと情緒を感じさせる一面ももっている。定住意向の理由を問う自由記述回答において、積極的定住意向をもつ回答者が多く使用した語句が「自然」、「交通」、「友人」、「長年在住」、「子ども」、「持ち家」だったことは、利便性とみどりの融合が評価されていることの証左と言えよう。

もっとも、西南部地域に属する3つの地域を見ると、駅前を中心に広がっている浅川地域、甲州街道に沿ってはいるものの、最寄り駅に出るためにはバス等の利用が必要な横山地域、昭和40年代に開発された大規模団地や学生が多く居住する集合住宅を中心とする館地域と、利便性や居住者の年代等の点において少しずつ差異があることも事実である。それぞれの特性に合う形での住み続けられる地域づくりが求められている。

#### 課題①：遠距離通勤者、学生と地域との「つながり」構築

西南部地域は前述のとおり浅川、横山、館の3地域から成り立っており、それぞれの地域特性は大きく異なる。例えば、西南部地域における通勤時間を見ると、「自宅」と「30分未満」の割合が他の地域と比べて少ないが（図表4-3-1）、これは高尾駅から都心方面へと通勤する住民が多い浅川地域の影響と考えられる。一方、横山地域に目を向けると古くから地域に住む住民が多く、館地域には学生層が多く居住している。複数の調査から、西南部地域の利便性に対する満足度はおおむね高く、「八王子市の自然に対する愛着や誇り」も高いことが示されたが、積極的定住意向が他の地域と比べてさほど高くないという事実は、そうした地域差から生じているのではないかと考える。すなわち、「他市から転入してきて、都心方面に通勤している住民」、「長く西南部地域に住んでいる住民」、「市内の大学等に通う学生」という3つの層に対して、それぞれ異なるアプローチで地域に目を向けてもらえるような取り組みを行うことが、積極的定住意向の向上に不可欠ではないかと考える。とくに、他市から転入し、なかなか地域住民とのつながりが持てない勤労者や学生に対しては、地域に触れ合うきっかけを提供する必要がある。

図表 4-3-1 地域ごとの通勤時間



#### 課題②：生活利便性の高さや自然の豊かさを活かした子育て支援

西南部地域はファミリー層の転入が見られるうえ、人口推計でも示されたとおり浅川地域の出生率が高く子どもが多いが、同時に通勤時間が長い傾向にあるとすれば、子育て層へのサポートが課題となってくる。一つは、西南部地域の駅前の託児施設等に子どもを預け、両親はそのまま公共交通機関で通勤し、夕方には駅前で子どもの迎えと買い物をしてから帰宅するという生活が無理なくスムーズにできるような環境をつくることである。もう一つは、子育てを両親だけの役割とせず、地域で育てられるだけの「つながり」を子育て層とその他の地域住民の間に築くことである。西南部地域の利便性とみどりに地域の「つながり」を加えて、より子育てしやすい環境をつくってあげれば、さらに多くの人を地域にひきつけることが可能だろう。